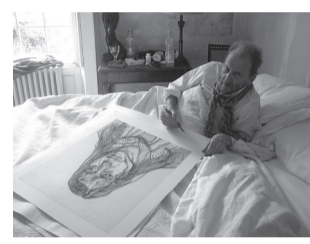


祖父は精神分析の祖ジークムント・フロイト。亡命の国「イギリスを代表する具象画家」と呼ばれるにいたり、ついにフランス・ベールコンと並ぶ現代の巨匠とみなされたルシアン・フロイド(一九二二—二〇一一)。肖像画というより、剥き出しの人間と人間の裸体を描きつづけたこの画家は、いったい何者なのか——身近にいた人びと、家族、女たち、子どもたち、青年期にルシアンに魅入られて以来追いかけてきたイギリス人、ジャーナリストが、取材をもとにこのミステリアスな男の人生をたどる、初めて公刊されたルシアン・フロイド伝。

「一九九〇年代半ばにルシアン・フロイドは、公認の伝記の出版を差し止めた。それまで伝記作家と協力してきたのだが、大金を支払って中止させた。原稿を読んだとき

現代美術を代表する具象画家 初の伝記

ジョーディ・グレッグ
《ルシアン・フロイドとの朝食 描かれた人生》
小山太一・宮本朋子訳



に、あまりに多くの親密な事柄の詳細が公衆の目に触れることを知ってぞっとしたのだ。彼の存命中にその本を出版するというアイデアは潰えた。(…)本書は彼の妨害を免れた。私は、彼の晩年の十年間、定期的に朝食を共にした。そして、会話を重ねるうちに、ルシアンは徐々に心を開いてくれた。とうとう、我々の会話を記録に残すことを許してくれた。彼が語ったことを複数の紙媒体に少しずつ公表しても構わない、という了解があった。その結果生まれたのが

本書なのだが、執筆が開始されたのはルシアンの死後である。著者である私は彼のキャリアを三十五年間追いかけてきたが、彼の信用を勝ち得たのは最後の十年間だけである。本書はそのような人間によつて書かれた、ルシアンの生涯と作品への個人的な見解である『美術』(二月上旬刊) A5変364頁・予五四〇〇円

自由や平等、身近なトピック再検証
中村隆文《不合理性の哲学 利己的なわれわれはなぜ協調できるのか》

利益、罰、自由……私たちがあたりまえに合理的な価値基準に基づいていると考えている物事は、本当に合理的なのだろうか？ また、合理的だからこそわかり合えないというものはありえないのだろうか？ そして、私たちの「不合理さ」は不必要なものなのだろうか？

想像してみよう。あなたが友人からプレゼントをもらった場合、友人が割引で五千円で購入した場合、あなたが割引で五千円で購入した場合、あなたはどちらのプレゼントがうれしうだろうか？ 割引で購入した品物をみると、人々が思いをデモや集会や出版物などを通して著すこと、訴えることが事実上できない。国民権下の国民の言動といえども、厳しい取締りの対象となる。規制に違反すると処罰される場合も稀ではない。それが歴史の教訓だということである。闘争術が一切、奪われるということも戦時下の特徴である。闘争術があるうちに、くいとされる。中略(ヘイト・スピーチが禁止されるのもこれによつて) (中略) ここで絶対に忘れてはならないことは、戦時下に入

今の状況は昭和三年に似ている

内田博文 《刑法と戦争 戦時治安法制のつくり方》

今の状況は昭和三年に似ている。議会の下で治安維持法が改正され、以後、猛威をふるった。「法の支配」が崩壊し、三年後に満州事変が勃発。日本は戦争に突き進んだ。治安維持法は権力者たちが大日本帝国憲法を事実上解釈改憲し、「国体変革」のクーデターを実現した過程であった。最初は共産党員と無政府主義者、次に労働組合・農民運動や人民戦線運動者などの合法的左翼と宗教者、最終段階では民主主義・自由主義・反戦運動まで処罰された。「普

通の人々」の「普段の生活」が取締りの対象だった。戦時体制をつくるためには戦時治安法・秘密保護法・国家総動員法、そして軍隊出動を可能にする憲法改正が最終的に必要である。刑法学者である著者は「歴史のものの理論化」という法学の武器を手には、治安刑法の論理と運用に切り込んでいく。現在の日本が平時の治安政策から戦時の治安政策へと変化しているさまは、まるで緻密な設計図が存在するかのようだ。戦時中の非人間的な行為の多くは法令に基づいて行われた。「量の民主主義(多数決)のたまたま」「悪法といかに闘うか」「質の民主主義」をどう立ち上げるのか。昭和三年ならば別な選択があったよ

『刑法と戦争』あとがきより 自己決定・自己責任が新自由主義者によつて高唱されているが、「人間の尊厳の不可侵」を規定することの意義は、この自己決定・自己責任に基づいて人権の侵害ないし制限を正当化することを認めないとする点にある。たとえば本人が同意したとしても、「人間の尊厳」を侵すことは許されないとされる。中略(ヘイト・スピーチが禁止されるのもこれによつて) (中略) ここで絶対に忘れてはならないことは、戦時下に入



繁栄と衰退の鍵とは何か？
Edmund Phelps 《Mass Flourishing: How Grassroots Innovation Created Jobs, Challenge, and Change (仮)》
小坂恵理訳

2006年ノーベル経済学賞受賞者が国家に繁栄をもたらす要素を考察する。一九世紀に一部の国で市場経済が発達すると、人類史上初めて天井知らずの賃金上昇と多くの国で、いや、今となってはすべての国で、そのすべてが失われてしまった。その背景には何があったのか。この稀に見る繁栄の盛衰を理解することが本書の目的である。……

種明かしをすれば、一八二〇年代(イギリス)から一九六〇年代(アメリカ)にかけての繁栄は、地域イノベーションの広範囲での普及が原動力になっていた。国家の経済に根ざした地域色の強いアイデアから新しい方法や財が生まれ、それが採用された結果として繁栄がもたらされたの

『不合理性の哲学 利己的なわれわれはなぜ協調できるのか』
中村隆文

『哲学が抛って立つ制度とは』
ジャック・デリダ
西山・立花・馬場・津崎訳

『既刊』『哲学への権利』1
西山・立花・馬場訳(五六〇〇円)
『関連書』シクス・デリダ『ヴェール』郷原佳以訳(四〇〇〇円) 鶴岡哲『ジャック・デリダの墓』(三七〇〇円) コワコフスキ『哲学は何を問うてきたか』藤田祐(四二〇〇円) スピヴァク『ある学問の死』上村・鈴木(二六〇〇円) グラムシ『知識人と権力』上村忠男編訳(二八〇〇円)

『大隈重信関係文書』11 補遺他
大隈重信関係文書(七四〇〇通)を編集し、公刊。全11巻完結。早稲田大学史料センター編 一五〇〇〇円(全巻送料別) 一九〇〇円

『世界宗教の発明』
ヨロップバ 普遍主義と多元主義の言説
増澤知子 19世紀の比較言語学と宗教学によるアフリカ語と仏教の発見を通じて、西洋の自己形成を探る。秋山・中村訳 六八〇〇円

『グローバリゼーションと惑星の想像力』恐怖と癒しの修辭学
下河辺美知子 今日における人文研究の意味と役割とは、19世紀アメリカからスピヴァク、アレント、ド・マンまで。三八〇〇円

『長田弘全詩集』
最初の詩集から五〇年。詩集一八冊、四七一篇の詩を収める唯一の完成版。本書に全力を注いで逝った詩人の人生。7刷 六〇〇〇円

『デュ・ドロワ』
哲学の権利
ジャック・デリダ
西山・立花・馬場・津崎訳

『動いている庭』
クレマン 現代園の新しい哲学を提示する庭師の手法と思想が詰まった代表作。カラー図版12頁。山内朋樹訳 四八〇〇円

『ある国にて』南アフリカ物語
ヴァン・デル・ポスト アパルトヘイト下の激しい人種差別を背景に異文化の対立と相解を描いた初期小説。戸田幸子訳 三四〇〇円

『形式論理学と超越論的論理学』
フツァール 論理学の根本法則をいかに現象学的に基礎づけるか。『論研』から『危機』書へ、中期の代表作。立松弘孝訳 七〇〇〇円

『近代デザイン』
高安啓介 デザインにおける鍵概念「近代」モダン」はどう定義できるか？デザイン用語の再検討を通してその内実を探る。三八〇〇円

『不健康は悪なのか』
メツル/カールラント編 精神医療、遺伝子医療、原子力政策……多面的考察から「健康」のあるべき姿を思索。細澤仁他訳 五〇〇〇円

『みすず書房新刊』
池内紀 その背中を押してくれる、友だちみたいな本。会いたい人と会うように読み綴る。本への愛に満ちたエッセイ。三〇〇〇円

『相互扶助の経済』無尽講義録
ナジタ 徳川期の民衆の編み出した「セーフティネット」が、経済倫理に何を示唆するか。五嵐曉郎監訳 揮岸豊訳 五四〇〇円

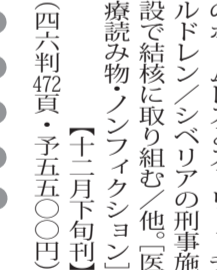
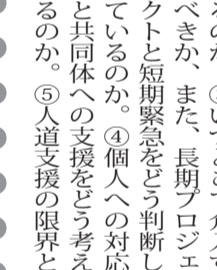
『幸せのグラス』
ビム どこまでも軽やかな筆致とユーモア。20世紀のオースティン・ビムによる、皮肉で素敵な女性小説。若津かおり訳 三六〇〇円

80年代に原稿を予告し、ドイツ国内で数々の賞を受賞した「みえない雲」。日本でも親子二世代にわたる読者をもつこのヤングアダルトの傑作の作者、グードルン・パウゼヴァングは今年87歳にして現役の作家である。その彼女の百冊目にあたる本書は、戦後70年をかけて熟成されたパウゼヴァングの想いのすべてをこめた一冊と言える。

ドイツのポーランド侵攻によって始まった第二次世界大戦。その終盤、母国の敗色濃く、戦場だけでなく国土の、そして国民の心のすみずみまで疲弊に覆われていた一九四四年夏から翌年五月までの物語——主人公はロシア戦線で左手を失い、除隊となって故郷の山あいの村で郵便配達人として働く17歳のヨハン。夫や息子からの便りを待ちわびる女たちに戦地からの手紙を届ける一方、彼らの死を報せる「黒い手紙」をもたらずともヨハンの仕事だ。ナチス

「戦争の日常」の中の普通の人びと

グードルン・パウゼヴァング
《片手の郵便配達人》
高田ゆみ子訳



を熱烈に支持する少女、ヨハンとおなじく傷痍兵として帰還した若者。戦争に懐疑的な者、ヒトラー批判をあからさまに口にしている者……登場人物のひとりひとりが、狂気に翻弄された「あの時代」の姿を鮮烈に伝えずにはいない。

主人公とおなじ17歳で祖国の敗戦を経験した作者が、自分たちの時代が犯した過ちを正面からみつめ、誰もが等しく経験せざるをえなかった戦争の悲惨、戦争の本質の姿を渾身の力をこめて描く。「文学・現代史」【十二月下旬刊】(四六判・248頁・二六〇〇円)

▼著者既刊 全体主義の狂気にのまれていった(普通の)人々を、少年少女の目を通して描く。「そこに僕は居合わせた」語り伝える、ナチ

三世紀以上にわたった奴隷貿易。その制度や経済の研究はあるが、奴隷船の実態は歴史の闇に包まれていた。レディカーはこの、非人間的制度についての「ヒューマン・ヒストリー」において、十八世紀の英米奴隷船の最暗部に光を当て、三十年に亘る海賊史研究をもとに、船の

ス・ドイツ下の記憶」高田ゆみ子訳(二五〇〇円)

▼ナチス下の街で政治とは無縁の名もなき夫婦の抵抗運動が始まる——H・アラブの代表作。「ベルリンに一人死す」赤根洋子訳(四五〇〇円)

構造とシステムを解明する。そして、裁判記録、日記、回想録、奴隷貿易廃止論者による談話などを自在に引用しつつ、当の奴隷はもろろん、船長や水夫など、船に閉じ込められた者たちの生と死、恐怖を、身の毛もよだつ細部に及んで生々しく描き切る。

だが本書は、苦難と悲劇の物語であるだけではない。その後にはアフリカン・アメリカン文化を生み出した、反逆とサバイバルの感動的な叙事詩でもある。「世界史・海事史」【一月下旬刊】(A5判480頁・予七〇〇〇円)

ベテランの医療社会学者が活動に参加した体験をふまえて論じ、語った貴重な仕事。研究者の手腕でまとめた重要な一書。

国境なき医師団(MSF/Medicus Sans Frontières)のスタッフの思想と現場での実践について、具体例に沿って以下のように詳察する。

①国境なき医師団は、その根底にあるグローバルな価値観と、支援対象である地域固有の文化との軋轢をそれぞれどう調整しているのか。②人員、物資、資源をどう配分するのか。③いつどこで介入すべきか、また、長期プロジェクトと短期緊急をどう判断しているのか。④個人への対応と共同体への支援をどう考えるのか。⑤人道支援の限界と

任務の遂行に伴うリスクにどう対処するか等々、様々なジレンマに直面するMSFの抱える問題と可能性を考える。「目次抄」現地からの声/成長にともなう痛み/発端/分裂/危機/ノーベル賞か反抗者か/討議の文化/南アフリカでHIV・エイズと闘う/非西歐的存在の誕生/ポスト社会主義ロシア/モスクワのホームレスとストリートチルドレン/シベリアの刑事施設で結核に取り組む/他「医療読み物・ノンフィクション」【十二月下旬刊】(四六判472頁・予五五〇〇円)

システイナナの聖母
フシリー・グロスマン 後期作品集
原爆・インロットの苦悩 社会主義体制下の格差 動物園のゴリラの人間観察: スターリン没後の作品を集成 齋藤一 四六〇〇円

丸山眞男話文集 続4
最後のダベリングを筆頭に、最晩年の言葉を中心に収録する。巻末には書簡一四四通。全4巻完結。丸山眞男手帖の全編 五八〇〇円

トレプリング力叛乱
死の収容所で起こったこと 1942-43
ウィレンベルク 70以上のユダヤ人が殺害されたトレプリング収容所の実態を初めて描いた、鮮烈な報告。近藤康子訳 三八〇〇円

ワイダーの副王
チャットウイン 西アフリカで奴隷商人となったアラブ人の数奇な生涯と彼の未解。人間の残虐と情愛を描く。旦敏介訳 三四〇〇円

北朝鮮の核心 そのロジックとランコ
この国をどう捉えるべきか。ソウル在住のシリア人歴史家が示す国際社会の本当の課題。山岡由美訳 李鍾元解説 四六〇〇円

潮目の予兆 日記 2013-4
原武史 大学人作家としての日々を、世の動向を分析、皇室を観察し、鉄道旅行をする。日常から時代を読む試み。二八〇〇円

活動的生
アーレント 哲学的な著者「人間の条件」のドイツ語版からの新訳。著者自身が多くの手を加えて成った決定版。森一郎訳 六五〇〇円

20世紀を考える
ジャット/スナイダー 知識人によって様々な理解された権力と公正、政治思想の限界と可能性を論じる。河野真太郎訳 五五〇〇円

死ぬとはどのようなことか
終末期の命と看取りのために
ボラージオ 緩和医療やホスピスをめぐる誤解や偏見を正し、よき終末期のための医療と社会の方途を探る。佐藤正樹訳 三四〇〇円

鉄道を歌った歌の二、三は誰でも思いつく。鉄道の継ぎ目と車輪が刻むリズム感音楽に馴染みやすいうえ、非常に多様な関わりが可能なため、他の乗り物にはない歌の宝庫を各国で作らだして来た。鉄道は国民国家と資本主義の性能を試すかのように、かなりの投資資金と工業力、労働力を前提とし、敷設の後には人と物と金の往来を促進し、強化し、生活のテンポを加速する。そのためにも近代化の根幹に関わってきた。「近代」を乗せ、歌のなかを汽車が行く」と第一巻のオビにあるが、お見事

本書は二巻連続で明治初年の陸蒸気のお座敷唄から今日の反原発のレゲエ

まで、鉄道から見た歌謡史、歌謡から見た鉄道史、つまり五〇数曲の鉄道歌謡から近代化という歴史の本線を案内している。

古典的な汽車だけでなく、路面電車、地下鉄、私鉄、駅頭暗れやかに送り出した息子は戦死し、東北地方が公認化やエネルギー政策までポイントを渡すべく、速すぎも遅すぎもしい急文体の乗り心地がよい。平明さに秘められた政治批判の音調は、継ぎ目なしレールのように真直ぐだ。随所に配された著者撮影の写真が同乗気分を高めてくれる。(ほそかわ・しゅうへい 国際日本文化研究センター教授)

松村洋「日本鉄道歌謡史」
1 鉄道開業〜第二次世界大戦
2 戦後復興〜東日本大震災 (本面下に広)

地方駅、それに関門トンネル、満鉄、パピロンの欲望電車まで、鉄道をめぐってこんないろいろなドラマが歌われてきたのかとまず驚かされるが、歌詞の注釈に留まらない。伴奏も含めた音楽的特徴、鉄道に人が

乗る乗せられた背景をきちんと押さえ、歌と鉄道の両輪に通じた著者ならではの卓見にあふれている。たとえば「軍国の母」が駅頭暗れやかに送り出した息子は戦死し、東北地方が公認化やエネルギー政策までポイントを渡すべく、速すぎも遅すぎもしい急文体の乗り心地がよい。平明さに秘められた政治批判の音調は、継ぎ目なしレールのように真直ぐだ。随所に配された著者撮影の写真が同乗気分を高めてくれる。(ほそかわ・しゅうへい 国際日本文化研究センター教授)

中東研究第一人者が、中東と日本を往還しつつ折々につづった出色の時評十七篇。「アラブの春」や「ウオール街占拠運動」で共通に見られるのは「自分たちは見捨てられている」という強烈な自覚だろう。「…」彼らが主張するのは、見捨てな、ではない。自分たちを見捨てるようなシステム自体に対する激しい忌避である。「…」新しさは、国家やお上に自分たちを何と

「日本国憲法」まっとうに議論するために「改訂新版」樋口陽一 昨今の数々の疑問への道標がここにある。平易な言葉で語る本格的入門書。情勢を見え大幅な補筆を施した。一八〇〇円

「近代」を乗せ、歌のなかを汽車が行く」と第一巻のオビにあるが、お見事

本書は二巻連続で明治初年の陸蒸気のお座敷唄から今日の反原発のレゲエ

まで、鉄道から見た歌謡史、歌謡から見た鉄道史、つまり五〇数曲の鉄道歌謡から近代化という歴史の本線を案内している。

古典的な汽車だけでなく、路面電車、地下鉄、私鉄、駅頭暗れやかに送り出した息子は戦死し、東北地方が公認化やエネルギー政策までポイントを渡すべく、速すぎも遅すぎもしい急文体の乗り心地がよい。平明さに秘められた政治批判の音調は、継ぎ目なしレールのように真直ぐだ。随所に配された著者撮影の写真が同乗気分を高めてくれる。(ほそかわ・しゅうへい 国際日本文化研究センター教授)

松村洋「日本鉄道歌謡史」
1 鉄道開業〜第二次世界大戦
2 戦後復興〜東日本大震災 (本面下に広)

地方駅、それに関門トンネル、満鉄、パピロンの欲望電車まで、鉄道をめぐってこんないろいろなドラマが歌われてきたのかとまず驚かされるが、歌詞の注釈に留まらない。伴奏も含めた音楽的特徴、鉄道に人が

乗る乗せられた背景をきちんと押さえ、歌と鉄道の両輪に通じた著者ならではの卓見にあふれている。たとえば「軍国の母」が駅頭暗れやかに送り出した息子は戦死し、東北地方が公認化やエネルギー政策までポイントを渡すべく、速すぎも遅すぎもしい急文体の乗り心地がよい。平明さに秘められた政治批判の音調は、継ぎ目なしレールのように真直ぐだ。随所に配された著者撮影の写真が同乗気分を高めてくれる。(ほそかわ・しゅうへい 国際日本文化研究センター教授)

中東研究第一人者が、中東と日本を往還しつつ折々につづった出色の時評十七篇。「アラブの春」や「ウオール街占拠運動」で共通に見られるのは「自分たちは見捨てられている」という強烈な自覚だろう。「…」彼らが主張するのは、見捨てな、ではない。自分たちを見捨てるようなシステム自体に対する激しい忌避である。「…」新しさは、国家やお上に自分たちを何と

「日本国憲法」まっとうに議論するために「改訂新版」樋口陽一 昨今の数々の疑問への道標がここにある。平易な言葉で語る本格的入門書。情勢を見え大幅な補筆を施した。一八〇〇円

にもかかわらず 1900-1930
ロース 近代建築移行期の巨匠の著者、初の全訳。装飾と犯罪。ほか全31編収録。鈴木了二・中谷礼仁監修 加藤淳訳 四八〇〇円

地方駅、それに関門トンネル、満鉄、パピロンの欲望電車まで、鉄道をめぐってこんないろいろなドラマが歌われてきたのかとまず驚かされるが、歌詞の注釈に留まらない。伴奏も含めた音楽的特徴、鉄道に人が

乗る乗せられた背景をきちんと押さえ、歌と鉄道の両輪に通じた著者ならではの卓見にあふれている。たとえば「軍国の母」が駅頭暗れやかに送り出した息子は戦死し、東北地方が公認化やエネルギー政策までポイントを渡すべく、速すぎも遅すぎもしい急文体の乗り心地がよい。平明さに秘められた政治批判の音調は、継ぎ目なしレールのように真直ぐだ。随所に配された著者撮影の写真が同乗気分を高めてくれる。(ほそかわ・しゅうへい 国際日本文化研究センター教授)

松村洋「日本鉄道歌謡史」
1 鉄道開業〜第二次世界大戦
2 戦後復興〜東日本大震災 (本面下に広)

地方駅、それに関門トンネル、満鉄、パピロンの欲望電車まで、鉄道をめぐってこんないろいろなドラマが歌われてきたのかとまず驚かされるが、歌詞の注釈に留まらない。伴奏も含めた音楽的特徴、鉄道に人が

乗る乗せられた背景をきちんと押さえ、歌と鉄道の両輪に通じた著者ならではの卓見にあふれている。たとえば「軍国の母」が駅頭暗れやかに送り出した息子は戦死し、東北地方が公認化やエネルギー政策までポイントを渡すべく、速すぎも遅すぎもしい急文体の乗り心地がよい。平明さに秘められた政治批判の音調は、継ぎ目なしレールのように真直ぐだ。随所に配された著者撮影の写真が同乗気分を高めてくれる。(ほそかわ・しゅうへい 国際日本文化研究センター教授)

中東研究第一人者が、中東と日本を往還しつつ折々につづった出色の時評十七篇。「アラブの春」や「ウオール街占拠運動」で共通に見られるのは「自分たちは見捨てられている」という強烈な自覚だろう。「…」彼らが主張するのは、見捨てな、ではない。自分たちを見捨てるようなシステム自体に対する激しい忌避である。「…」新しさは、国家やお上に自分たちを何と

「日本国憲法」まっとうに議論するために「改訂新版」樋口陽一 昨今の数々の疑問への道標がここにある。平易な言葉で語る本格的入門書。情勢を見え大幅な補筆を施した。一八〇〇円

にもかかわらず 1900-1930
ロース 近代建築移行期の巨匠の著者、初の全訳。装飾と犯罪。ほか全31編収録。鈴木了二・中谷礼仁監修 加藤淳訳 四八〇〇円

進化する遺伝子概念
ドゥーシュ 古代中世の遺伝・発生の考えから環境と相互作用する動的なフランス進化学のDNA観まで。佐藤直樹訳 三八〇〇円

地方駅、それに関門トンネル、満鉄、パピロンの欲望電車まで、鉄道をめぐってこんないろいろなドラマが歌われてきたのかとまず驚かされるが、歌詞の注釈に留まらない。伴奏も含めた音楽的特徴、鉄道に人が

乗る乗せられた背景をきちんと押さえ、歌と鉄道の両輪に通じた著者ならではの卓見にあふれている。たとえば「軍国の母」が駅頭暗れやかに送り出した息子は戦死し、東北地方が公認化やエネルギー政策までポイントを渡すべく、速すぎも遅すぎもしい急文体の乗り心地がよい。平明さに秘められた政治批判の音調は、継ぎ目なしレールのように真直ぐだ。随所に配された著者撮影の写真が同乗気分を高めてくれる。(ほそかわ・しゅうへい 国際日本文化研究センター教授)

松村洋「日本鉄道歌謡史」
1 鉄道開業〜第二次世界大戦
2 戦後復興〜東日本大震災 (本面下に広)

地方駅、それに関門トンネル、満鉄、パピロンの欲望電車まで、鉄道をめぐってこんないろいろなドラマが歌われてきたのかとまず驚かされるが、歌詞の注釈に留まらない。伴奏も含めた音楽的特徴、鉄道に人が

乗る乗せられた背景をきちんと押さえ、歌と鉄道の両輪に通じた著者ならではの卓見にあふれている。たとえば「軍国の母」が駅頭暗れやかに送り出した息子は戦死し、東北地方が公認化やエネルギー政策までポイントを渡すべく、速すぎも遅すぎもしい急文体の乗り心地がよい。平明さに秘められた政治批判の音調は、継ぎ目なしレールのように真直ぐだ。随所に配された著者撮影の写真が同乗気分を高めてくれる。(ほそかわ・しゅうへい 国際日本文化研究センター教授)

中東研究第一人者が、中東と日本を往還しつつ折々につづった出色の時評十七篇。「アラブの春」や「ウオール街占拠運動」で共通に見られるのは「自分たちは見捨てられている」という強烈な自覚だろう。「…」彼らが主張するのは、見捨てな、ではない。自分たちを見捨てるようなシステム自体に対する激しい忌避である。「…」新しさは、国家やお上に自分たちを何と

「日本国憲法」まっとうに議論するために「改訂新版」樋口陽一 昨今の数々の疑問への道標がここにある。平易な言葉で語る本格的入門書。情勢を見え大幅な補筆を施した。一八〇〇円

にもかかわらず 1900-1930
ロース 近代建築移行期の巨匠の著者、初の全訳。装飾と犯罪。ほか全31編収録。鈴木了二・中谷礼仁監修 加藤淳訳 四八〇〇円

進化する遺伝子概念
ドゥーシュ 古代中世の遺伝・発生の考えから環境と相互作用する動的なフランス進化学のDNA観まで。佐藤直樹訳 三八〇〇円

みすず書房70周年記念 Misuzu 秋の連続夜話 全5回(10月10日/15日/22日/29日/11月5日開催)ご報告

みすず書房70周年記念 Misuzu 秋の連続夜話 紙上報告

2015年10月10日(土) 15日(木)・22日(木)・29日(木) 11月5日(木) 以上全5回開催

第二回 本と出会いと仕事場と

講師 池内紀(ドイツ文学)

「みすず書房と長くお付き合い... 池内先生。創業者小尾俊人が出版に込めた志...」



「池内紀の仕事場」全8巻(各二八〇〇円)は、ドイツ文学者、エッセイスト、旅人、画家(自称だそうです)...

秋に、東京・神田神保町の「サロンド・富山房Fouri」で、小社にゆかりの深い著者を幅広いジャンルからお招きし、トークの夕べを開催しました...



小尾さんは長野県諏訪から十九歳で上京して間もなく、戦後命からがら戻ってきて仲間二人とみすず書房を立ち上げました...

第二回 戦いから共生へ

病原微生物と「共に生きる」という 発想への転換

講師 山本太郎(国際保健)

「山本先生には、最近四半世紀に医学のパラダイムが大きく転換しはじめたという、スケールの大きなテーマを語っていただき...」



「一九八〇年、人類は初めて、ある一つの病原体を地球上から滅ぼすことに成功しました。天然痘の撲滅です...」

第三回 擬装するDNA

多様だから生きられる DNA 研究最前線

講師 太田邦史(分子生物学)



「太田先生は分子生物学のホットなテーマについて、生物集団が生き延びるには多様性が必要であるというお話を端緒に、親しみやすい語り口で語ってくださいました...」

「生物の多様性は何が源泉になっているのかという点、どうもDNA自体が多様性を生む性質をもっているようなのです...」



「素白先生の散歩」(二六〇〇円)、森於菟「葦葦寸前」(二六〇〇円)他に解説をお寄せいただきました...」

「道化のような歴史家の肖像」(写真・池内郁、三〇〇〇円)など、シリーズ(大人の本棚)立ち上ります(ご報告)です

「そうした新しい局面で注目されている常在細菌叢について。『今は肥満、糖尿病、自閉症、アレルギー、クロール病などの炎症性腸疾患がすくなく増えている...』」

「ご講演では、無菌のマウスに人の糞便を移植して、常在細菌叢の影響を実証するという、驚くべき研究例をご紹介いただきました...」

「『アープロジェクトには隠された目的があって、将来世代のために世界中からうちのストックを...』」

「再生医療、老化や細胞のガン化の仕組みにも大事な役割を果たしているというエピソード、女王バチ(働きバチの雄)もエピソードの多い部分で驚かされました...」

Book promotion for '権力の病理' (Pathology of Power) and 'エイズの起源' (Origin of AIDS) by Kei Ikenouchi.

「人間でも同じようなことがあり、ナチスドイツ軍が撤退する際に、あるオランダの街を破壊してしまい、約一年ぐらいたの間その食糧が乏しく、一日に約一〇〇〇カロリー以下の摂取量になっただけでした...」

「人間でも同じようなことがあり、ナチスドイツ軍が撤退する際に、あるオランダの街を破壊してしまい、約一年ぐらいたの間その食糧が乏しく、一日に約一〇〇〇カロリー以下の摂取量になっただけでした...」

「『ヒストンやクロマチンの性質によって、DNA上の遺伝子のスイッチのオン/オフが記憶される仕組みがあるのです...』」

「『ヒストンやクロマチンの性質によって、DNA上の遺伝子のスイッチのオン/オフが記憶される仕組みがあるのです...』」

「『ヒストンやクロマチンの性質によって、DNA上の遺伝子のスイッチのオン/オフが記憶される仕組みがあるのです...』」

みすず書房70周年記念 Misuzu 秋の連続夜話 全5回(10月10日/15日/22日/29日/11月5日開催)ご報告

第四回 建築オノマトペ

〈心地良いくらしの場〉をつくりたい

講師 富田玲子(建築家)

建築家の富田玲子さんは「象設計集団」の創立メンバーで、以後四〇年にわたり、小学校、保育園、老人ホーム、温泉館、市役所、街路など、ユニークで心地良い空間を設計されています。

《今日のテーマは『心地良いくらしの場をつくりたい』。これは七二年に象設計集団を作った以来、そう思いながら設計してきたことだと感じます。

心地良いくらしとは、まず、見たたり聞いたりという直感のびのびと働く状態。そして、自分の居場所があること。土地の気持ちにあっていくこと。これらを具体的に形にするときに、「オノマトペ」がとても便利な道具なんです。

最初のオノマトペは、「こころすけ、すけ、ぬくぬく」。体にあう、自分の居場所があるということ。埼玉県宮代町の笠原小学校では、子どもがすけすけ入る小さな空間をたくさんつくりました。子どもが「私の場所よ」と言える空間です。

つぎは「べたべた、ひたひたざらざら」。つまり触感です。東京都葛飾区のうらら保育園では、子どもたちははだしてべたべた過ごし、畳にべたべたと座ってちやぶちやぶお昼ごはんを食べます。

「内は外、外は内、きらきらすけすけ、あいまいもこ」。沖縄県の名護市庁舎は、柱がたくさんあって、風が通り、すけすけとしていきます。「ここからが役所だぞ」という硬い壁やガラスがなく

講師 富田玲子の本より 富田玲子さんが象設計集団でつくられた数々の建築。その理念、心地良いくらしの秘密、生い立ちなど、すべてが込められた『小さな建築』は、増補新版を準備中です(下段は初版カバー、現在品切れです)。



て、ふわふわと、どこからでも入っていきそうな組み方です。つぎは空間のお話です。「ぐるぐるぐるぐる」。同心円や渦巻きなどで、「ここが世界の中心なんだ」という場所をつくりたい。たとえば、すり鉢状の中庭。そんな場所にいると、人はうれしい気持ちになるのではないだろうか。

「だんだんだん」。広島県矢野南小学校では部屋と庭を段々につく。屋上は田んぼになっていきます。お米を収穫しているときの子どもたちはとてもうれしそう。五年生が田んぼの係だったのですが、一粒の米粒が次の年には五百粒になることを学ばずにはいけません。

ここからはおまけの話です。おまけですが、なくてはならないおまけの話です。まず、「色、いろ」。宮代町の進修館の外壁は、最初はコンクリート打ち放しで色がなかったのですが、竣工後二〇年経って色がつきました。また打ち放しをすると高価になるし、不透明な塗装をすると力強さがなくなってしまう。そこで、半透明だけの色があるという仕上げにしました。宮代町は巨峰の名産地です。ですから、ぶどうの色をめざしました。

「なぞなぞ、なつかしい、くすくす、うふうふう」。笠原小学校の柱には、いろはがらた、都道府県名、いろいろなものを打ち込んでいます。偶然、校長室の前が「としよりのひやみず」になったりとか、おもしろいことが起こっています。

つづく質疑応答では、「くねくねと設計した小学校の運動会では、子どもたちはまっすぐ走っているのですか。そして、まっすぐ走らなければいけないのでしょうか」「世田谷の用賀プロムナードでは、ふつうは屋根におかれる瓦が地面に敷き詰められているのがおもしろいと思います。瓦にしたのには何か理由があるのですか」「など、鋭くも楽しい質問が次々となされ、富田さんもユーモアたっぷりに答えられていました。

講師 最相葉月(ノンフィクションライター) 戦後日本の精神・心理療法を支えた 中井久夫と河合隼雄を中心に

「日本の心理学、精神医学界に大きな功績をのこす河合隼雄さん(一九二八—二〇〇七)と中井久夫さん(一九三三—)。二人の専門家が今日のテーマでもある「共に病みうる人間として」、どのように向き合ってきたか、皆さんと一緒に振り返りたいと思います。

河合隼雄さんは「箱庭療法」を日本にもたらした方。一九六五年のことです。一九五〇年代末、ロルシャッチャを極めようとしてUCLAに留学しますが、アメリカの合理主義に違和感をおぼえるようになります。その後スミス・ユング研究所で出会ったのが「サンドプレイ・セラピー」、のちの箱庭療法でした。河合さんはそれを「日本化した」といいますか、解釈よ

る要因、環境が子孫のDNAに影響する事実などが、ここから新しく見えてきます。

講師 太田邦史の本より 『自己変革するDNA』(二八〇〇円)では、DNAの構造と機能を専門とする研究者が、「DNAは自らを書き換える自己変革能を内蔵する」という画期的概念を創出します。遺伝子の本体であるDNAは「生命の設計図」にたとえられてきましたが、不変の静的な存在ではなく、環境に応じて自らをすなやかに書き換えています。

『DNAの自己変革能』の暴走状態である癌、寿命や老化を制御する

一九四五年十二月、出版社みすず書房設立の申し合せがなされ、小社は第二次世界大戦後の廃墟から始まりました。以来、本を愛するたくさんの方々を支えられ、今日までまいりました。

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

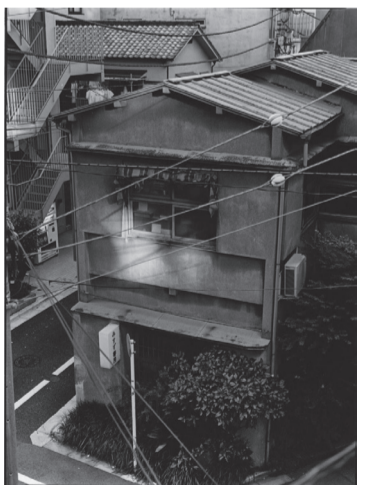
全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます



みすず書房 旧社屋 (文京区本郷3丁目17-15) 撮影 潮田登久子 1995年

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます



『災害がほんとうに襲った時』の表紙

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

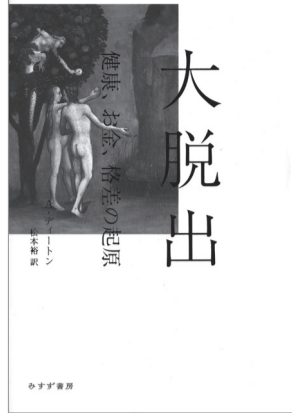
全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

全国的書店で順次開催 店頭が小社の本との出会いの場になりますよう、そして読書の喜びを多くの方と分かち合えます

アンガス・ディートン教授 ノーベル経済学賞

ノーベル財団はその功績をこう讃えます。「幸福を増進し貧困を削減する経済政策の設計には、まず個人の消費嗜好を理解する必要があります。ディートンは誰よりもこの理解を深めた。個別の個人嗜好と、その集合的な結果を結びつけることで、ミクロ経済、マクロ経済、開発経済の分野を変革してきた。この開発経済における業績を一般向けに記したのが『大脱出』です。格



『大脱出——健康、お金、格差の起原』松本 裕訳 (3800円) * 電子書籍もあります (希望小売価格 3800円)

本の世界を心から愛した人 長田弘



あります。大学卒業後、美術出版社で編集者となり、一九六四年に刊行開始された『中井正一全集』、他にも美術選書の何冊かを手がけます。その後、三十代を通じて、朝日、読売、毎日各紙の書評委員になっていきます(当時の書評欄は匿名でした)。

今年の五月三日に七五歳で亡くなった長田弘さん。その絶筆ともいえるエッセー「場所と記憶」は、『長田弘全詩集』への「長いあとがき」として書き下ろされました。福島市新町で生まれてから、東京都杉並区宮前が終の棲家を決めるまでの、暮らした土地、旅した場所と、詩作との関わりを、静かながら強い思いで綴った文章です。

今年、来日した著者

トマ・ピケティ(1月) 1月29日から2月1日まで、『21世紀の資本』(山形浩生他訳、五五〇〇円)の著者トマ・ピケティ教授が来日しました。 仏英語版に続き韓国、独

有楽町朝日ホール、恵比寿の日仏会館、東京大学本郷キャンパスでの講演に加え、「報道ステーション」「クローズアップ現代」「ニュース23」「ワールドビジネスサテライト」の収録、一〇件以上の新聞・雑誌等の取材、さらに丸善書店丸の内店でのサイン会とい



『最後の詩集』長田弘

日頃の会話のなかでも、本の内容についてだけでなく、姿かたち、編集、出版、新聞広告、書店のことを(それも古今東西にわたって)楽しそうに話っておられました。 長田さんの精神のうちで

う分刻みの過密スケジュールでしたが、お申し込みいただいた取材の半分以上をお断りせざるを得ず、講演もキャンセル待ち続出となりました。

この強行軍をプロに外注せず自社のド素人スタッフで企画運営というのは、今思えば無謀だったかもしれません。 ピケティ教授はその手作り感も含めて楽しんでくれるという度量の大きさ。予定外の自然発生的なサイン会にも快く応じ、その人柄に接した人はみな感激しきりの様子でした。

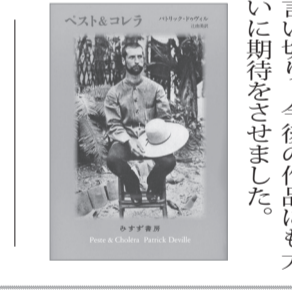
『動いている庭』(山内朋樹訳、本紙二面下広告)の著者でフランスの庭師ジル・クレマンが本年2月、総合地球環境学研究所(京都)の招きにより来日しました。21日には日仏会館(東京)で「都市のジオロジ」、23日には地球研(京都)で「地球という庭」、27日にはアンステイチュ・フラン

受賞図書のご案内 森一郎・東北大学教授がアレント『活動的生』の翻訳により、第52回日本翻訳文化賞を受賞されました。主著人間の条件』独語版からのみごとな訳業(本紙三面下広告)

『最後の詩集』と並んで遺著となった『本に語らせよ』(幻戯書房)に、「本来、本は社会の記憶の抽斗なのだから」という言葉を見つけた。この言葉の奥にある、長田さんの経験と思索を思うとき、失われたものの大きさに改めて気づくのです。 『長田弘全詩集』(本紙二面下広告)『最後の詩集』(三二面下)

ジル・クレマン(2月) 『動いている庭』(山内朋樹訳、本紙二面下広告)の著者でフランスの庭師ジル・クレマンが本年2月、総合地球環境学研究所(京都)の招きにより来日しました。21日には日仏会館(東京)で「都市のジオロジ」、23日には地球研(京都)で「地球という庭」、27日にはアンステイチュ・フラン

バトリック・ドゥヴィル(11月) フェミナ賞受賞作『ベスト&コレラ』(辻由美訳、三四〇〇円)は、科学者・冒険家イェルサンを生徒を徹底取材と斬新な手法で書いた小説。旅する作家というイメージのままに颯爽と登場したドゥヴィルは、およそ多弁とほど遠い人で、ある流派に枠付けられたくないようです。大西洋岸の町サン・ナゼールに設立した外国人作家・翻訳家会館の活動に熱心。「自分と無縁のジャンルは歴史小説」と言い切り、今後の作品にも大いに期待をさせました。



月刊雑誌 『みすず』 最近号より 吉増剛造「怪物君、詩乃傍で」倉谷滋「自然観の歴史と科学の歴史」レスニツク「21世紀に読む『種の起原』」を讀んで「ブレイディみかこ」貧者分断のエレジー(十月号) 吉増剛造「怪物君、詩乃傍で」辻由美「図書館の可能性」最終回「今福龍太」ヘンリー・ソーロ「野生の学舎 霧の子供たちのなかへ」(十一月号) 江口重幸「研

デザイナー川添英昭氏がケヴィン・ケリー「テクニウム」服部桂樹のカバーデザインにより、第46回講談社出版文化賞(ブックデザイン賞)を受賞されました。(四五〇〇円)

『動いている庭』(山内朋樹訳、本紙二面下広告)の著者でフランスの庭師ジル・クレマンが本年2月、総合地球環境学研究所(京都)の招きにより来日しました。21日には日仏会館(東京)で「都市のジオロジ」、23日には地球研(京都)で「地球という庭」、27日にはアンステイチュ・フラン

バトリック・ドゥヴィル(11月) フェミナ賞受賞作『ベスト&コレラ』(辻由美訳、三四〇〇円)は、科学者・冒険家イェルサンを生徒を徹底取材と斬新な手法で書いた小説。旅する作家というイメージのままに颯爽と登場したドゥヴィルは、およそ多弁とほど遠い人で、ある流派に枠付けられたくないようです。大西洋岸の町サン・ナゼールに設立した外国人作家・翻訳家会館の活動に熱心。「自分と無縁のジャンルは歴史小説」と言い切り、今後の作品にも大いに期待をさせました。

究329と「ファルマゲドン」 笠羽映子「ブレイズ生誕九〇年」西郷信綱「口誦文芸のもつ地平」アイヌ文化・沖縄文化を貫くもの」舟田詠子「アカシアの森へ」(十一月号) 連載は小沢信男「大谷卓史」外岡秀俊「池内紀」宇野邦一「斎藤貴男」大井玄「保坂和志」植田実「上村忠男ほか。(各三〇〇円) 『読書アンケート特集』と『みすず』次号は、毎年ご好評をいただく「読書アンケート特集」掲載の1・2月号併号です(二月一日発行)。

デザイナー川添英昭氏がケヴィン・ケリー「テクニウム」服部桂樹のカバーデザインにより、第46回講談社出版文化賞(ブックデザイン賞)を受賞されました。(四五〇〇円)

書評にとりあげられた本より 2015年1-12月

- アンガス・ディートン『大脱出』 松井彰彦氏(読売新聞1月4日)・水無田気流氏(朝日新聞1月11日)・小塩隆士氏(日本経済新聞1月18日)
渡邊一民『福永武彦とその時代』 前田英樹氏(読売新聞1月11日)
石川美子『青のバティニール 最初の風景画家』 川本三郎氏(毎日新聞1月11日)
エーリヒ・ケストナー『ファビアン』 富重与志生氏(北海道新聞2月1日)
トマ・ピケティ『21世紀の資本』 橘木俊昭氏(公明新聞1月5日)・佐藤優氏(AERA 1月5日号)・吉田徹氏(北海道新聞1月18日)・友寄英隆氏(赤旗1月18日)・米田貢氏(赤旗1月21日)・永江朗氏(週刊朝日1月23日)・河野龍太郎氏(週刊東洋経済2月7日号)・橋本努氏(東京新聞・中日新聞2月8日)・菅啓次郎氏(読売新聞2月22日)・鈴木隆芳氏(ふるんす2月号)・榎本誠氏(ジャーナリスト683号)・江上剛氏(東京新聞・中日新聞3月22日)・稲垣真澄氏(産経新聞3月22日)・若田部昌澄氏(自由思想137号)・ロバート・キャンベル氏(Fole 5月号)・久元喜造氏(日本経済新聞9月20日)・女のしんぶん2月10日・日本経済新聞2月22日・日本経済新聞8月30日・AERA 11月23日号
レジス・ドゥブレ/樋口陽一/三浦信孝/水林章『思想としての(共和国)——日本のデモクラシーのために』 伊達聖伸氏(朝日新聞2月8日)
デイヴィッド・ピアリング『植物が出現し、気候を変えた』 中野不二男氏(福島民友3月19日)・渡辺政隆氏(日本経済新聞3月22日)
鳥飼玖美子『英語教育論争から考える』 斎藤史氏(日本経済新聞3月22日)
D. ジョーンズ『正義はどう論じられてきたか』 杉田敦氏(朝日新聞4月12日)
ヴァージニア・ウルフ『自分だけの部屋』 松田青子氏(読売新聞4月12日)
ジル・クレマン『動いている庭』 青木淳氏(読売新聞4月19日)・産経新聞4月26日
テツオ・ナジタ『相互扶助の経済』 杉田敦氏(朝日新聞4月26日)・大井浩一氏(毎日新聞5月12日号)・濱田武士氏(読売新聞6月7日)・関博至氏(日本農業新聞6月8日)・日本経済新聞4月26日
濱田武士/小山良太/早尻正宏『福島に農林漁業をとり戻す』 岡田知弘氏(京都新聞4月19日)・福島民友3月19日・毎日新聞4月26日
水野真木子/内藤隆『コミュニティ通訳』 鳥飼玖美子氏(日本経済新聞5月17日)
デイヴィッド・ヒーラー『ファルマゲドン』 日本経済新聞5月17日
『長田弘全詩集』 蜂飼耳氏(朝日新聞5月24日)・松山巖氏(読売新聞7月5日)
J. ウォルドロン『ヘイト・スピーチという危害』 橋爪大三郎氏(日本経済新聞5月31日)・杉田敦氏(朝日新聞5月31日)・五野井郁夫氏(東京新聞・中日新聞6月21日)
西平直『誕生のインファンティア』 岡ノ谷一夫氏(読売新聞6月14日)
ローレンス・ヴァン・デル・ポスト『ある国にて——南アフリカ物語』 佐倉統氏(朝日新聞6月21日)・日本経済新聞「春秋」5月23日
J.M. メツル/A. カーランド編『不健康は悪なのか』 井波律子氏(毎日新聞6月21日)・武村政春氏(北海道新聞6月28日)
長田弘『最後の詩集』 松山巖氏(読売新聞7月5日)・信濃毎日新聞7月12日

- 『パレンボイム/サイド』音楽と社会 木村俊介氏(毎日新聞7月5日)
服部文祥『ツンドラ・サバイバル』 内澤千子氏(朝日新聞7月12日)・関野吉晴氏(東京新聞・中日新聞8月23日)
ブルース・チャトウィン『ウイダーの副王』 中村和恵氏(朝日新聞7月12日)
G. オバーサーカラ『キャプテン・クックの列聖』 中村和恵氏(朝日新聞7月19日)
アンドレイ・ランコフ『北朝鮮の核心』 日本経済新聞7月19日
J.v. ユクスケル『動物の環境と内的世界』 福岡伸一氏(朝日新聞8月2日)
V.E. フランクル『夜と霧』[新版] 池田訳 今日マチ子氏(朝日新聞8月9日)
V.E. フランクル『夜と霧』 霜山訳 鮫島有美子氏(朝日新聞11月2日夕)
『サン=テグジュペリ デッサン集成』 青木淳氏(読売新聞8月9日)
A.M. ルロワ『ヒトの変異』 東京新聞・中日新聞8月9日
M.J. ブレイザー『失われてゆく、我々の内なる細菌』 福岡伸一氏(信濃毎日新聞8月23日)・日本経済新聞8月9日
松村洋『日本鉄道歌謡史』全2巻 川本三郎氏(毎日新聞9月13日)・長崎勸助氏(日本経済新聞9月13日)・原武史氏(朝日新聞9月20日)・原口隆行氏(東京新聞・中日新聞9月27日)・長田暁二氏(赤旗10月25日)・山田航氏(週刊金曜日11月6日号)・石田昌隆氏(ミュージック・マガジン11月号)・読売新聞10月18日
ジョッシュ・ウェイツキン『習得への情熱—チェスから武術へ—』 柴田文隆氏(読売新聞10月4日)・毎日新聞9月13日・日本経済新聞9月27日・秘伝11月号
神谷美恵子コレクション『生きがいについて』 玄田有史氏(日本経済新聞9月13日)
W. フィーヴァー『イングランド炭鉱町の画家たち』 松山巖氏(読売新聞9月20日)
森まゆみ『森のなかのスタジアム』 五十嵐太郎氏(朝日新聞9月27日)・山口文恵氏(信濃毎日新聞11月8日)・藤島大氏(北海道新聞11月8日)・鎌田慧氏(週刊朝日11月27日号)・社会新報11月11日号・婦人公論11月24日号
武谷なおみ編『短篇で読むシチリア』 小池昌代氏(日本経済新聞10月11日)
ダイアン・コイル『GDP』 脇田成氏(日本経済新聞10月25日)
松本雅彦『日本の精神医学この五〇年』 柄谷行人氏(朝日新聞11月1日)・斎藤環氏(毎日新聞11月22日)
ニック・タース『動くものはすべて殺せ』 日本経済新聞11月8日
S. ヴィレンベルク『トレブリンカ叛乱—死の収容所で起こったこと 1942-43』 尾崎俊二氏(赤旗10月11日号)・読売新聞11月8日
武藤洋二『紅葉する老年—旅人木喰から家出人トルストイまで—』 前田耕作氏(週刊読書人11月13日)・平松洋子氏(読売新聞11月29日)・日本経済新聞11月1日
ダニエル・J. ソロウ『プライバシーの新理論』 新保史生氏(日本経済新聞11月22日)
アドルフ・ロース『にもかかわらず』 五十嵐太郎氏(朝日新聞11月29日)
A. アンニョリ『知の広場—図書館と自由』 南後由和氏(日経サイエンス12月号)
(上記にご紹介する以外にもたくさんの方の書評をありがとうございました)

『最後の詩集』(本紙二面下) 『最後の詩集』(三二面下)

『最後の詩集』(本紙二面下) 『最後の詩集』(三二面下)

「集合住宅は断片からの建築である。全体より断片が優位な建築には象徴的表現も様式の統一もない。そのことをいささか極論的に強調しているかもしれない。そのため順を追って作品事例を紹介するのはなく、項目別という断片からみていく構成になった。その結果同じ事例が何度も繰り返して登場する羽目になつてしまつたが、かわりに小さな地味な作品事例や、有名な集合住宅でもあまり紹介されることのない局面や細部を拾うことができた。内外の近代建築通史などをみると、登場する作品事例もその概要説明もだいたい同じという限



モダニズム諸概念の再編制にむけて

難波和彦編 《建築家の読書塾》

「モダニズムの建築・都市理論は、いまや現実と乖離し説得力を失っている状況にある。(…)近代建築への(異議申し立て)としてあらわれたポストモダニズムは、たしかにモダニズム理論の弱点を衝いた面もあつたが、その建築表現は一時的な流行として消費されてしまった。逆にポストモダニズムの表現上の空転は、現代がいまだに(近代化)モダニゼーションの影響下にあることの証明のように思われる」

編者が東大退官後の二〇一〇年、研究室OBを中心に始まつた読書会の記録。全編担当者による問題提起的レビューと編者解説というゼミ形式

「集住」の造形、百年の記録

植田 実

《集合住宅30講》

界がある。そのような建築史上の選択や評価にとりわけ集合住宅はおさまりにくい。といった着想をこの小文に反映させたかった」

「都市住宅」から「住まい学大系」まで建築誌・書籍の編集長を半世紀近く務めてきた著者が『アパートメント』『集合住宅物語』『いえ団地まち』の後に刊行する集合住宅もの総集編。ル・コルビュジエのユニテ、同潤会アパートほか訪ね歩いた内外の名作について、みずから撮影した写真を添え縦横に説き明かす。「集住」の造形、百年の記録。カラー写真百四十六点、図版総点数二百三十三点。『建築』(A5判・280頁・四二〇〇円)▼復刊 植田実『集合住宅物語』写真・鬼海弘雄(本紙八面囲みにご案内)▼著者既刊『都市住宅クロニクル』全2巻(各五八〇〇円)▼住まいの手帖『真夜中の庭』(各二六〇〇円)▼長期連載「住ま



新大陸に播かれた人びと

W.C.ウィリアムズ 《代表的アメリカ人》 富山英俊訳

「歴史、歴史! ぼくたちは馬鹿者は何を知り気にかける? 歴史は、ぼくたちにどうして殺人と奴隷狩りが始まつた。発見でない。ぼくたちはインディアオでないが、かれらの世界の間だ。血はなにも意味しない。精神が、土地の霊が、ぼくたちの血のなかで動き、血を動かす」

アメリカのモダニズムを代表する詩人が一九二五年に刊行した、歴史エッセイの名著。コロンブス、コルテス、デント、シャンプラン、ワシントン、フランクリン、リンカーン、大航海と征服時代から独立革命、南北戦争まで、アメリカ大陸四〇〇年の歴史を形作ってきた代表的アメリカ人(探検家、入植者、軍人、政治家など)を取り上げ、今に生きる伝統を再構築する。手紙、日記、戦記、裁判記録など文献資料と、大地の霊を吹き込まれた詩人の想像力が激しくスパークする、新大陸の叙事詩。本邦初訳。「文学・アメリカ史」【二月下旬刊】(四六判320頁・予三〇〇〇円)

「小神話論理」三部作の終結

C.レイヴィストロース 渡辺公三・福田素子・泉典訳

《大山猫の物語》

「小神話論理」に連なり「小神話論理」と呼ばれる三部作『仮面の道』(新潮社)『やきもち焼きの土器つくり』(みすず書房)を継ぐ第三冊であり、20世紀最大の思想家のライフワークの文字通り終結をなす書である。北アメリカのオオヤマネコ神話を軸に「神話論理」最終巻「裸の人」以後の成果を詳らかにし、著者の晩年の思索をしるす。『目次』序言/第一部 霧の方へ/時ならぬ妊娠/コヨーテ父子/ツノガイを盗む女たち/時をさかのぼる神話/運命を告げる宣告/シロイワヤギたちへの訪問/第二部 晴れ間 ミミズクにさらわれた



町の子ども図書館の創設

町の子ども図書館の創設メソッド、司書、館長の立場で図書館の立て直しに奮闘してきたアンニヨリさん。現在は図書館アドバイザーとしてイタリアを拠点に海外視察や講演に飛び回っている。前著(小社刊)で図書館を「知の広場」(萱野有美訳、二八〇〇円)と表現したように、ネット社会高齡化社会において、図書館は本を借りるための施設ではなく、本を背景に人々が自由に集い、憩うことができる社会的な場所なのだ。建築空間づくりからユニークな市民サービスまで、さまざまな提言が詰まった一冊。

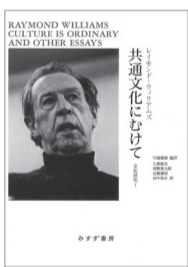
「なによりも必要なのは、図書館は想像するよりはるかに豊かな場所であり、入りやすい場所であり、どんなスマートフォンより「知的である」ことを市民に明らかにすることである。それは、市民から図書館には民主主義の理想が本当にあると感じ取ら

ジャンルをこえた文化唯物論の軌跡

レイモンド・ウィリアムズ 川端康雄編訳

《想像力の時制》 文化研究Ⅱ(完結)

「わたしたちは希望のため」に語らなければならぬ——それが危険の本性を隠してしまわぬかぎりにおいて——カルチュラル・スタディーズの祖と目される批評家にして、一九五〇年代末から新自由主義台頭のサッチャー政権時代まで新たなオルタナティブを提示し続けたニューレフト運動の論客。テリー・イーグルトンいわく「戦後イギリスが生んだ最も優れた文化思想家」の全貌を示す日本独自編集版(全二巻)。本巻は表題作「ユートピアとSF」「メトロポリス的知覚とモダニズムの出現」「リアリズムの擁護」「文学と社会学



市民とともに創る

アントネッラ・アンニヨリ 《拝啓 市長さま、図書館の話をしましょう》 空間・創造・参画》 萱野有美訳

「わたしたちは希望のため」に語らなければならぬ——それが危険の本性を隠してしまわぬかぎりにおいて——カルチュラル・スタディーズの祖と目される批評家にして、一九五〇年代末から新自由主義台頭のサッチャー政権時代まで新たなオルタナティブを提示し続けたニューレフト運動の論客。テリー・イーグルトンいわく「戦後イギリスが生んだ最も優れた文化思想家」の全貌を示す日本独自編集版(全二巻)。本巻は表題作「ユートピアとSF」「メトロポリス的知覚とモダニズムの出現」「リアリズムの擁護」「文学と社会学

町の子ども図書館の創設メソッド、司書、館長の立場で図書館の立て直しに奮闘してきたアンニヨリさん。現在は図書館アドバイザーとしてイタリアを拠点に海外視察や講演に飛び回っている。前著(小社刊)で図書館を「知の広場」(萱野有美訳、二八〇〇円)と表現したように、ネット社会高齡化社会において、図書館は本を借りるための施設ではなく、本を背景に人々が自由に集い、憩うことができる社会的な場所なのだ。建築空間づくりからユニークな市民サービスまで、さまざまな提言が詰まった一冊。

みすず書房新刊

(2015.1.10) 3 東京・文京本郷5-1-1 (価格は税別です)

森のなかのスタジアム

新国立競技場を走る 森野ゆみ 日本民主主義とは「聞かない民主主義」なかに、新国立競技場をめぐる暴挙の全貌と課題を掲げる活動記録。二四〇〇〇円

動くものはすべて殺せ

アメリカ兵はベトナムで何をしたか ターナス・ミソイ(ソニイ) 虐殺事件は逸脱ではなかった。いま初めて明らかされる民間人大量殺戮の実態。布施由紀子訳 三八〇〇円

フロイトとアンナ・O

最初の精神分析は失敗したのか ストラス 治療記録や関係者の書簡などを再検証。アンナ・Oの治療結果の真実を解き明かす。岡元彩子・馬場謙一訳 五五〇〇円

これを聴け

ロス『20世紀を語る音楽』の著者待望の新刊。古楽から現代音楽、レイオヘッドまでベスト評論十七篇。植沼敏江訳 四六〇〇円

21世紀に読む「種の起原」

レスニック 世界を変えた本なのに、誰もが読まずにいた「ダーウィン『種の起原』の魅力」を再発見する。垂水雄二訳 四八〇〇円

翼ある夜

ツェランとキーファー 関口裕昭 ツェランとキーファーの知られざる深い関わりとは、二人の創作の謎から、戦争の記憶が浮上する。図版多数。五八〇〇円

パクリ経済

ラウナス・イアラ・スプリグマン 創造性がコピーで活性化する6つの教訓をケーススタディで提示。山形森太郎 山田解題 三六〇〇円

帝国の時代

1875-1914(全2巻) 萱野有美訳 2015復刊 5月

フランス憲法史

デュヴェルジュエ アンシャン・レージュムから革命期を経て現在の第五共和制まで。全憲法をきめ細かく分析。時本義昭訳 三五〇〇円

アーレント政治思想集成

1組織的な罪と普遍的な責任 2理解と政治 一九三四年の思考の全貌を集成する。コーン編 齋藤山田・矢野訳 各五六〇〇円

世俗の形成

キリスト教 イスラム 近代 アサド 世俗的近代性という特殊に西洋的なモデルを考へ直し、近代の権力と宗教的伝統の再配置を試みる。中村圭志訳 六二〇〇円

新装復刊「7月」

ジャン・ジャック・ルソー問題 カッシーラー 逆説にみちた近代思想の父ルソーの精神の運動の内部へ深く沈潜し、鮮明な思想家像を描出。生松敏三訳 二二〇〇円

ルソー 透明と障害

スタロバンスキー「透明」をキー概念に内面的伝記を構成し、文学・思想的営為との対応を精緻に分析する。山路昭訳 四五〇〇円

うつ病臨床のエッセンス

笠原嘉 日本精神医学を支えてきた著者にによる臨床論。うつ病をめぐる議論が尽きない時代の精神医療従事者の必読書。三三〇〇円

誤診のおこるとき

精神科診断の山下格 患者を前に、何を見、何を知らるか。誤診例から学ぶ診断学の名著を今日的なトピックを加え、大幅な改訂を施す。三三〇〇円

ある作家の日記

ウルフ エリオットやフォースターとの交友を読みとる本……創造の苦しみと楽しみを生きたと伝える。神谷美恵子訳 四四〇〇円

法社会学の基礎理論

エールリッヒ 法状況の変化にもかかわらず生き続ける、法社会学の古典的名著の完訳。河上倫逸/M・フリーヒト訳 七二〇〇円

現代精神医学の概念

サリヴァン 精神医学は対人関係の学である「積極的精神療法を行なった著者の名を知らしめた名著。中井・山口訳 六二〇〇円

ロスゴ 芸術家のリアリティ

美術論集 マーク・ロスゴ 独自の様式を確立する前後その芸術の転換点となった時期の幻の手稿を編む。C.ロスゴ編 中林和雄訳 五六〇〇円

シャルロット・ペリアン自伝

ル・コルビュジエの名作家を世に送り、柳宗理ほか日本の建築工芸界と深く交流したデザイナーの生涯。北代美和子訳 五四〇〇円

メタフィジカル・クラブ

メナンド 南北戦争が始まり冷戦まで。米国の根幹プラグマティズム思想をめぐる、百年の精神史。野口・那須・石井訳 六五〇〇円

論理学研究

フッサール 独自の現象学の方法を初めて展開した画期的著作。新装復刊。立松弘孝他訳 ①六五〇〇円②④⑥六〇〇〇円③⑦七〇〇〇円

基本図書 限定復刊

11月

一般言語学の諸問題

バンヴェニスト ソシュールを継ぐ文化人類学、社会学、歴史学への知的地平。岸本通夫監訳 ¥6500

一般理論経済学 [全2巻]

遺稿による『経済学原理』第2版メンガー 市場経済に加えて非市場経済を視野に収める普遍的経済の学。八木・中村・中島訳 各¥5000

集合住宅物語

植田実 同潤会アパートからヒルサイドテラスまで。生活史としての記録。写真・鬼海弘雄 ¥4600

地球の洞察

多文化時代の環境哲学
キャリコット 欧米とアジアの環境思想から先住民の自然観まで比較考察。山内・村上監訳 ¥6600

新装版 11・12月

地に呪われた者

ファンン 植民地主義に抗し、生涯を闘争に捧げた著者が遺したメッセージ。鈴木・浦野訳 ¥3800

アラブ、祈りとしての文学

岡真理 小説を読むとは、他者の生を生きることだ。アラブ文学の読解から思想の力を問う。¥3000

西欧精神医学背景史

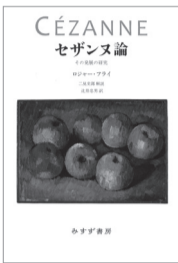
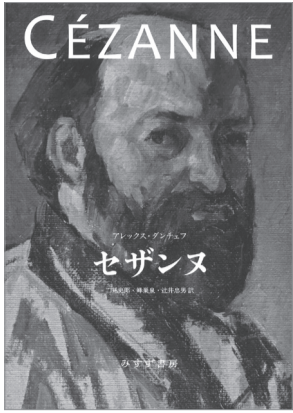
中井久夫 西欧文化の倫理・人間観の影響下に展開した古代から現代までの精神医学の流れ。¥2800

セザンヌ論

その発展の研究
フライ ロマン主義的な激しい表現から古典主義へ、その深化をたどる。二見解説 辻井訳 ¥3000

ロラン・バルト 喪の日記

最愛の母を失った苦悩から『明るい部屋』に至る密かな覚書。精細な訳注と解説。石川美子訳 ¥3600



伝説を乗り越え、真姿に迫った 決定版伝記

アレックス・ダンチュフ
《セザンヌ》

二見史郎・蜂巣泉・辻井忠男訳

〈われわれが見ているものすべてが散り散りになり、消えてゆくんじゃないかな。自然はつねに同じ自然だが、その自然がわれわれに現わしている姿のうち何ひとつ同じままのものはない。われわれの芸術は、そこに、そのさまざまな要素を含む持続の震え、そのすべての変化の面影を示さないといけない。芸術はわれわれに永遠なる自然を味わせてくれなくてはいい。自然の下に何があるかって？ 何もないね、たぶん。おそろくすべてかな。すべてだよ。わかるかな？〉

ことだ
〈私はいくらか進歩を遂げました。なぜこんなに遅々とした、こんなに骨の折れる仕事なのか〉
日々、外に出て写生をする。思考に囚われず、ただ描き、制作する。そこから、われわれの知るセザンヌは誕生した。
エクサン・プロヴァンスでゾラと共に遊び遊んだ少年時代から、画家としての出発妻オルタンスのこと、ピサロとの写生の日々、反骨精神、セザンヌ独自の画法の誕生、その晩年と死まで。同時代の一次資料や数多くの先人のセザンヌ論、最新の研究成果を讀解して、これまでの伝説を乗り越え、その真姿に迫ったセザンヌ伝の決定版。カラー図版八〇頁。「芸術・伝記」(A5判・592頁・九〇〇〇円)
▼復刊 ロジャー・フライ「セザンヌ論」(左の囲みご参照)

「ホモ・サケル」シリーズの最終巻

ジュール・アガンベン

上村忠男訳

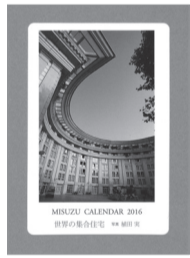
《身体の使用》

一九九五年から二十年、イタリアの哲学者アガンベンの「ホモ・サケル」シリーズが本書をもって終わる。
『例外状態』(未來社)『王国と栄光』(青土社)『開かれ』(平凡社)など、邦訳のある著作群が、著者自身の言葉で振り返られる。使用・我有化・要請・生の形式・無活動・潜勢力・脱構成的権力など、「ホモ・サケル」で探求されつづけた概念がいかなる地点に至ったのかを、読者は知ることが出来る。シリーズを通じて「脱構成的可能態の理論」の構築が目指されていたという。
とくに、前著『いと高き貧しさ』(小社刊)で着手された「生の形式」、すなわち生きるものがたんなる事実ではなく、生の可能性であるような生、分離できないほど形式と結びつき、「生政治」(フーコー)に回収されない生という概念について、第三部で展開される。
西洋哲学の伝統が観念的生活と「働かないでいること」とに特別の役割を持たせてきた理由——人間が希望することが出来る最大の善すなわち



「イタリヤのカテゴリ」詩学序説 岡田温司監訳(四〇〇〇円) ▼上村忠男「ヘテロトピア通信」(三八〇〇円)

みすず美術カレンダー 2016
本紙9月の号でもご案内しましたが、来年版は特集「世界の集合住宅」(写真・植田実)です。本紙七面にご紹介する植田実『集合住宅30講』所収の中からユニークな建物の写真8葉を特集。ハガキ大で卓上用(ペーパーケース入)。ご希望の方は、一部六一八円(税込・送料八二円、計七〇〇円分の切手をご同封の上



みすず書房 営業部だより

毎月「大脱出」を刊行したアングス・ディートン氏が、今年のノーベル経済学賞を受賞されました(同じく六面ご参照)。邦訳は「大脱出」のみとあって大変な反響があり、今後とも予定しているこの分野の企画に弾みがつく受賞でした。どうぞ引き続き、みすず書房の経済書にご注目下さい。
毎年この時期に作成している小社の総合図書目録ができあがりしました。ロングセラーはもろろんのこと、本年十一月までに刊行した最新刊、著作集やシリーズ、オンデマンド版、最近の復刊書、電子書籍、在庫僅少本まで、たぐいま出庫可能な一〇〇〇点をジャンル別にご紹介しています。ご活用いただければ幸いです。本紙添付のハガキにて、どうぞご請求下さい。

図書目録 2016年版出来

活と「働かないでいること」とに特別の役割を持たせてきた理由——人間が希望することが出来る最大の善すなわち

「イタリヤのカテゴリ」詩学序説 岡田温司監訳(四〇〇〇円) ▼上村忠男「ヘテロトピア通信」(三八〇〇円)

みすず書房 近刊のお知らせ

来年2-3月の刊行予定から

精神医学歴史事典

- エドワード・ショーター 江口重幸監訳
- 文楽の日本——人形の身体と叫び フランソワ・ピゼ 秋山伸子訳
- 涙は流さない、今は(仮) 宮崎かつ系
- 小尾俊人の戦後 宮田昇
- 正義の境界 O.オニール 神島裕子訳
- 料理と帝国 R.ローダン ラッセル秀子訳
- 李禹煥 S.フォン・ベアスヴォルト=ヴァルラーベ 水沢勉訳
- 自然手話——見えない視覚言語の現われ(仮) 斉藤道雄
- 亡き人へのレクイエム(仮) 池内紀
- ベイリィさんの画廊——みゆき画廊の50年 牛尾京美
- ヘンリー・ソロ 野生の学舎 今福龍太

(ウェブサイトにもご案内 http://www.ms.z.co.jp)

みすず書房・最近の重版より

- 明るい部屋——写真についての覚書 ロラン・バルト 花輪光訳 ¥2800
- 道しるべ ダグ・ハマーショルド 鶴飼信成訳 ¥2800
- アメリカの反知性主義 R.ホーフスタッター 田村哲夫訳 ¥5200
- 大脱出——健康、お金、格差の起原 アングス・ディートン 松本裕訳 ¥3800
- 日本の精神医学この五〇年 松本雅彦 ¥2800
- 医師は最善を尽くしているか アトゥール・ガワンデ 原井宏明訳 ¥3200
- 相互扶助の経済——無尽講・報徳の民衆思想史 T.ナジタ 五十嵐暁郎監訳 福井昌子訳 ¥5400
- 奇跡——ミラクル— [詩集] 長田弘 ¥1800
- かくれた次元 E. T. ホール 日高敏隆・佐藤信行訳 ¥2900
- 習得への情熱——チェスから武術へ ジョッシュ・ウェイツキン 吉田俊太郎訳 ¥3000